

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第 6 号:2009 年 7 - 8 月期】

\* 本レポートは ROTOB0 の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOB0 の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済発展実績

2009 年上半期、ウズベキスタン GDP 成長率は前年同期比 8.2% 増を示した。鉱工業生産 9.1% 増、一般消費財生産 13.1% 増、農業生産 4.6% 増、サービス 18.5% 増、建設 32.5% 増であった。国家予算は GDP 比 0.3% の黒字で執行され、インフレ率は 3.6% で予測を下回った。

上半期の基本投資実施額は 32.7% 前年同期比増、総額 6 兆スムを上回り、うち直接外国投資は 2.6 倍に増えた（総額 16 億 6,500 万ドル）。投資総額の 71.1% が生産投資に向けられた。

投資総額のうち基本的比率を占めたのは、企業と住民の資金 49%（去年同期は 53.3%）、共和国予算資金 11.2%（13.8%）、予算外基金の資金 7.7%（9.4%）、銀行融資およびその他借入金 3.3%（3.1%）だった。

外国投資および融資の大半、すなわち 57.9% は運輸・通信部門で消化され、13.5% が地質調査・探鉱部門、12.3% が燃料エネルギー・コンプレックス、2.9% が軽工業、1.4% が保健部門、1.1% が建材産業で消化された。

上半期の貿易額は前年同期比 5% 増の 104 億 9700 万ドルであった。輸出額は 2.8% 増の 60 億 3400 万ドル、輸入額は 8.2% 増の 44 億 6300 万ドルであり、上半期の貿易収支は 15 億 7100 万ドルの黒字となった（去年同期は 24 億 4,700 万ドルの黒字）。

1～6 月期の主要輸出品目は、エネルギー担体 43.7%（去年同期 18.5%）、綿繊維 9.6%（13.7%）、サービス 8.4%（9.6%）、鉄・非鉄金属 4.1%（8.4%）、機械設備 2.3%（7.9%）、一般消費財 8.7%（8.5%）である。主要輸入品目は依然として機械設備 56.9%（49.4%）であり、化学製品・プラスチック 11%（12.4%）、一般消費財 13.1%（12.9%）、鉄・非鉄金属 6.4%（8.1%）、サービス 4.3%（5.9%）であった。

### 投資政策

2015 年 1 月 15 日までウズベキスタンの商業銀行の利益税率は、貸し出しポートフォリオ構造に占める長期投資向け融資の比率に応じて個別に引き下げられる。

2009 年 7 月 28 日付「大統領決定」により、投資案件への長期融資（3 年以上）が銀

行の貸し出しポートフォリオに占める比率が 35%から 40%未満の場合には銀行の利益税率が現行税率の 80%、比率が 40～50%未満の場合には現行税率の 75%、比率 50%以上の場合には現行税率の 70%に定められた。現在、商業銀行の利益税率は 15%である。

同時に中央銀行の預金準備率についても決められた。中央銀行は法人預金に関する市中銀行の強制的準備率を銀行の受け入れ預金の期間に応じて個別に適用する制度を導入する。すなわち、期間 1～3 年未満の預金に関しては規定準備率の 80%、3 年以上の預金に関しては規定準備率の 70%が適用される。中央銀行の現在の預金準備率は、銀行の預金額の 15%である。

さらに、2015 年 1 月 15 日まで、法人は 5 年間、商業銀行の期間 1 年以上の預金および債券購入から得た利子所得への課税を免除される。商業銀行はこれまでに与えた融資の返済分として徴収した資産の売却に際して付加価値税を免除される。リース・サービスを行う法人は 2009 年 9 月 1 日より 3 年間、リース取引から得た所得に関して利益税と単一納税の支払いを免除される。

### **エネルギー・セクター**

**スペイン「Initec」社がナヴォイ火力発電所近代化案件(費用 4 億 5000 万ユーロ)に関する国有株式会社「ウズベクエネルギー」の競争入札で当選。**

競争入札の条件によると、Initec 社はナヴォイ火力発電所に出力 477MW のコンバインドサイクル発電装置をターン・キー方式で建設しなければならない。案件のファイナンスは「ウズベキスタン復興開発基金」の融資とウズベクエネルギーの自己資金で行われる。ナヴォイ火力発電所の拡張は、ナヴォイ州に開設されるナヴォイ経済特区へのエネルギー供給を万全にするための方策の一つである。

**合弁企業「Asia Trans Gas」がトルクメン産ガスのウズベキスタン通過用ガスパイプライン「ウズベキスタン - 中国」線の最初の支線を 2009 年 12 月に完成予定。**

現在、管路の半分以上が敷設済みで、8 月中に第 1 支線の工事を完了し、第 4 四半期に支線全体の運転開始・調整を実施する計画である。工事予定表によると、2011 年末までに第 2 支線とさらに 2 カ所のコンプレッサー・ステーションを完成させることになっている。

合弁企業 Asia Trans Gas は、昨年 4 月に「ウズベクネフチェガス」と「中国石油天然ガス会社」(CNPC) がガスパイプライン「ウズベキスタン - 中国」線の設計・建設・運用のために対等原則に基づいて設立した会社である。

### **外国の地下資源利用者の税金を引き上げ**

上院は 2009 年 8 月 28 日の会議で「税法典」の修正を審議する。この修正は生産物分与(PS)協定に参加している外国企業に対する税の控除額変更をめざすものである。修正が採択されれば、PS 協定で具体的な税金および納付金の率が定められていない場合、PS 協定に参加している外国企業はウズベキスタン居住者と同じ規定に従って利益税、土地税、水資源利用税、単一社会税を納付することになる。PS 協定参加の外国企業にはまた、居住者と同じように、炭化水素原料物品税も課されることになる。さらに、PS 協定の条件に関わりなく、地下資源利用税(ロイヤルティー)が居住者と同じ税率で算定され、徴収されることになる。その場合、すでに実施されている PS 協定による投資家には、猶予期間が設けられる予定。PS 協定発効日から 10 年が経過するまでは物品税を納付しなくてよい。

### **国有株式会社「ウズベクエネルギー」が 2009 年 9 月にスルハングリア州で 500kV 送電線(建設費 1 億 3,760 万ドル)の運用を開始**

この案件は送電容量 800MW、延長 197km の送電線を建設するもので、これによりウズベキスタンからアフガニスタンへの電力供給を現在の送電容量 70MW から 300MW まで増強することが可能になる。案件のファイナンスはウズベクエネルギーの自己資金(4,920 万ドル)、イスラム開発銀行からの借款(4,200 万ドル)、ウズベキスタン復興開発基金の融資(2,920 万ドル)、ウズベキスタンの銀行の融資(1,720 万ドル)により行われる。

### **国家持ち株会社「ウズベクネフチェガス」、「ペトロナス」(マレーシア)、「SASOL」(南アフリカ共和国)が「合成液体ガス(GTL)生産プロジェクト実現のための合併企業協定」に調印**

ウズベキスタンは世界で 6 番目、CIS および欧州諸国では最初の合成液体燃料(GTL)生産国となる。合併企業の定款記載資本金は 20 億ドル程度になる予定。GTL 生産工程により、ウズベキスタンで採掘される天然ガスから年間約 130 万トンの製品(ディーゼル燃料、灯油、ナフサ、液化石油ガス)が生産出来るようになる。

### **「ウズベクネフチェガス」が 2009～10 年にムバレク・ガス精製工場の近代化を実施**

年間合計処理能力 60 億 m<sup>3</sup> の 3 つの汎用ブロックからなるガス脱硫施設第 7 期工事分の建設が実施される。2009 年末までに最初の脱硫ブロックが、2010 年初めにはさらに 2 つのブロックが稼働を開始する。案件のファイナンスはウズベクネフチェガスの自己資金によって行われる。第 7 期工事分の脱硫ブロック完成により、ウズベキスタンとの PS 協定の枠内でロシアの「ルクオイル」社が開発中のブハラ州「ハウザク・シャディ」エリアでのガス加工問題を解決することができる。このエリアにおける新たなガス採掘井の稼働開始を考慮すると、ムバレク・ガス精製工場へのガス供給量は 2011

年までに 83 億 m<sup>3</sup> 以上増える可能性がある（2009 年の採掘実績から予想される供給量は 64 億 m<sup>3</sup>）。

### **株式会社「ウズトランスガス」が 2009 13 年にウズベキスタンのガス配給システムの近代化を実施**

3 年間に近代化の枠内で会社の管路運用業務を充実させるための特別装置 90 単位（総額 1 億 6,000 万ドル）を購入する計画である。ウズトランスガスはまた、2010 13 年にガス輸送網制御・監視システム（SCADA）の導入プロジェクトを実施する（費用 7,740 万ドル）。SCADA の距離は光ファイバー通信線で 2,000km 台になる。プロジェクト総額はウズトランスガスの自己資金 1 億 5,380 万ドル、外国融資 8,360 万ドルの導入によって行われる。特に、現在、中国輸出入銀行から 7,360 万ドルの融資を導入する交渉が行なわれている。

### **その他のセクター**

#### **国家持ち株会社「ウズベキストン・ハヴォ・イウラリ」（ウズベキスタン航空）が IOSA の認証を取得**

IOSA（IATA 運航安全監査）の認証は国際航空アライアンスに加盟するための必須条件であり、同社が「スカイチーム」アライアンスに加盟する道を開くものだ。IATA（国際航空運送協会）は、ウズベキストン・ハヴォ・イウラリが IOSA オペレーター台帳に登録されたことを公式に確認した。2007 年末に大韓航空首脳部がウズベキストン・ハヴォ・イウラリのスカイチーム加盟を提案した。

#### **ナヴォイ採鉱・冶金コンビナート(NGMK)が 2009 15 年に自社主要金鉱(ムルンタウ採鉱場)の低品位鉱石プロセッシングに 5,330 万ドルを投資**

この投資は採鉱場の低品位鉱石を利用するためにヒープ・リーチング用の新しいベッド工事に向けられる。ファイナンスは NGMK の自己資金とウズベキスタン復興開発基金の融資 830 万ドルで行われる。

#### **ドイツ「MAN Nutzfahrzeuge AG」と株式会社「ウズアフトサノアト」がサマルカンドに自動車組立合弁企業を設立**

「JV MAN AutoUzbekistan」の定款記載資本金は 300 万ユーロ、うちウズアフトサノアトの持分は固定ファンドと工場建物の形で 51%、MAN の持分は資金と設備の形で 49%である。この合弁企業は快適度の高い市内バスと燃料エネルギー産業・冶金産業用の特殊自動車（ダンプカー、牽引トラクター、クレーン車、掘削装置用プラットフォーム）の組立を行う。2009 年第 4 四半期にも自動車の組立をスタートする予定で、

2012 年末までに組立台数を 100 台にすることが計画されている。

現在、ウズベキスタンではバスと貨物自動車はサマルカンド自動車工場（「SamAvto」）

が製造している。2007 年 5 月に日本のいすゞが同社の株式 8%を取得した。ウズアフ  
トサノアトも同社の株主である。

### **アジア横断鉄道網(TAR)政府間協定を承認**

この協定は、ウズベキスタンを含む地域 28 カ国を結ぶ延長 11 万 4,000km のアジア横断鉄道国際システムの創設を予定している。協定は 2006 年 11 月に韓国の港湾都市釜山で、国連アジア・太平洋経済社会委員会（ESCAP）加盟諸国大臣会議の枠内で調印された。協定は幹線鉄道用の国際規格を定め、国際的意義を持つ次の 4 ルートの発展をめざしている

北回廊 ロシア、カザフスタン、モンゴル、中国、朝鮮半島を結ぶ。

南回廊 タイと中国雲南省をトルコと結ぶ。このルートはバングラデシュ、インド、パキスタン、イランを通過する。

準地域的鉄道網 東南アジア諸国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、ヴェトナム）をカバーする。

「北＝南」輸送回廊 北欧とベルシャ湾を結ぶ。このルートはロシア、中央アジア、カフカースを通過する。